

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492200371	事業の開始年月日	平成23年4月1日
		指定年月日	平成29年4月1日
法人名	社会福祉法人 県央福祉会		
事業所名	ラ・プラージュ湘南		
所在地	(251-0037) 神奈川県藤沢市鶴沼海岸6-7-14		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和3年10月12日	評価結果 市町村受理日	令和4年5月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者の生活支援に重きを置き、認知症になっても今までのように生活できるように支援したいと考えています。そのために、常に学ぶ姿勢を大事にして専門性の向上を目指しています。コロナ禍でなかなか難しいですが、地域とのつながりを意識した事業運営を行っていきます。「入居者様1人1人の主体性がある、その人らしい生活の実現」を事業所理念として、最期の時までその人らしく生活できる事業所作りを目指しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年11月19日	評価機関 評価決定日	令和3年12月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、小田急江ノ島線「本鶴沼」駅から徒歩約13分、または、「藤沢」駅北口バスターミナルから江ノ電バス「鶴沼車庫」行、「藤原」バス停から徒歩3分の閑静な住宅地にあります。ホームの目前には事業所がレクリエーションで利用している、市民の憩いの場「八部公園」があります。

<優れている点>

管理者やフロアリーダーは、日々職員とコミュニケーションを図り、職員の意見や提案を受け入れ、ミーティングでは事前に意見や提案を募り協議し、運営に活かし職員の意欲を引き出しています。全職員それぞれが参加する各種委員会（アクティビティ、リスクマネジメント 身体拘束・虐待防止、研修・感染症）が活動し、各委員会での協議事項は毎月のミーティングで報告し、業務改善に繋げています。ヒヤリハットは、当日の出勤者でカンファレンスし、原因分析・今後の対応を検討しています。また、ミーティングでも振り返り検討しています。

<工夫点>

各フロア環境整備に取り組み、1階は「廊下スペースを入居者が寛げるスペースにしていく」、2階は「浴室・リネン室を入居者にとって安心・安全な場所にしていく」を目標に掲げ、職員は様々な視点から気付きやアイデアを出し合い、「何を?」「いつまでに?」「どうする?」を話し合い、目標達成に取り組み改善に繋がっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ラ・プラージュ湘南
ユニット名	1F ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念は作成していますが、理念を振り返る機会がなかったように思います。もう一度基本に立ち返り、どこに向かうべきか振り返る時間が必要と感じています。	事業所理念は、管理者が職員と面談し、職員の一致した方向性を基に作成しています。研修で振り返ると共に、支援上で意見の「ぶれ」が生じた時には、常に理念に立ち返るようにしています。新人には入職時に説明し、共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所の方へのあいさつは習慣にしています。今年度は大きな行事が実施できていないため、事業所に足を運んでいただくことが出来ていません。	地域の一員として、町内会の理事や班長を努め、会費の集金や広報紙の配布などを行っています。コロナ禍前は、地域行事や事業所行事を通じて交流しており、また、保育園児や音楽、傾聴ボランティアが来訪しています。コロナ収束後の交流再開を検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症があっても地域で生活できるという事を知っていただくために、散歩等を日常的に行っています。今年度は藤沢市グループホーム連絡会が主体となり認知症サポーター講座を実施しました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度はコロナウィルスの影響で、運営推進会議は書面にて実施しています。事業所の活動内容を報告して、意見やアドバイスをいただき事業に反映しています。	コロナ禍で運営推進会議は書面開催とし、2ヶ月に1回、定期的開催し、議事録を会議のメンバーにファックス送信し、報告しています。意見や要望は運営推進会議の開催案内で事前に募り、対応し、運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	2ヶ月に一度、藤沢市のグループホーム連絡会を実施予定でしたが、今年度も活動らしい活動は出来ていません。自治会から依頼があり、認知症サポーター養成講座を藤沢市グループホーム連絡会が主体となって実施しました。	管理者は、藤沢市グループホーム連絡会の会長を努め、行政とは協力関係を築いています。今年度はコロナ禍で6月に一度の活動となっています。認定更新手続きでは行政に出向いています。コロナ禍前は介護相談員が定期的に訪問しており、連携しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束にあたる、具体的な行為などをミーティング等で共有しています。玄関の施錠については、ご家族からも戸締りをしたほうがいいのではと意見をいただき戸締りをさせていただいております。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月ごと、定期的で開催し、議事内容を職員に閲覧しています。また、研修を実施すると共に、「リスクマネジメント 身体拘束・虐待防止委員会」を設置し「身体拘束は介護現場の最大のタブー」として拘束のない支援を実践しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ミーティング等で虐待について学ぶ機会をつくっています。声掛け等、細かなところから日常的に気をつける組織風土をつくってきたいです。	虐待防止の研修で不適切な対応について学んでいます。「身体拘束・虐待防止委員会」を定期的で開催し、職員に周知し、不適切な場面があった場合は、その都度、管理者やリーダーが注意を促し、虐待のない支援を実践しています。	研修やミーティングなどを通じて虐待のない支援に取り組んでいますが、高齢者虐待防止法等についても学ぶ機会を持ち、虐待防止の根拠を再確認されることも期待されます。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所では、数人後見人を立てている利用者さんがいらっしゃいますが、まだまだ知識不足なので勉強する必要があると思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、解約または改定等の際は、利用者やご家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を得ています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃から入居者やご家族の希望・要望を聴くことを心がけています。ご家族の面会時などに積極的にコミュニケーションをはかり、運営に反映できるように努力しています。	運営推進会議や家族の訪問時に意見や要望を聞く機会を設けています。また、事業所内外の「苦情相談窓口ポスター」を掲示し、周知を図っています。意見や要望、苦情などは申し送りノートに記録し、共有し、速やかに対処するようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のフロアミーティングや、個人面談の際に意見や提案を聞く機会を設けています。その際に十分に検討して合意形成をはかってから、運営に反映するようにしています。	管理者やフロアリーダーは、日頃から職員に声掛けしコミュニケーションを図り、フロアミーティングで意見や提案を協議し、運営に反映させています。職員は、リスクマネジメント委員会を始めとした各種委員会に所属、活動し、運営の一端を担っています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	常勤に関しては、能力や実績を把握できるように人事考課制度が見直されています。また、年に1回職員の意向調査・満足度調査をおこない、各自が向上心を持って働けるように職場環境を整備しています。	年2回、人事考課と個人面談を実施しています。また、職員の意向・満足調査を法人が実施し、職員の状況を把握しています。勤務シフトは職員の意向を反映し、年次有給休暇は希望に応じて取得しています。各フロアにスタッフルームを設置し、休憩、気分転換の場としています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内では個々の専門性を高める為の研修が定期的に行われています。事業所内では常勤職員が研修委員会を担当していますが、まだ具体的な取り組みが出来ていません。新人職員にはOJTを基本に育成を行っています。	新職員には、ベテラン職員による「OJT」を1ヶ月程度行い、育成しています。外部研修受講費用は支給され、勤務扱いとなっています。研修受講者は事業所内で2次研修を行っています。また、資格取得支援では費用補助制度があります。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内では、月に一度管理者が集まる会議を実施しています。神奈川県グループホーム協議会の幹事も務めており、他事業所の取り組みなどを参考にしている機会にしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前にご家族及び関連医療機関等から利用者様のこれまでのご様子・嗜好・既往歴等の聞き取りを行い、スタッフ間で共有・事前に支援計画を作成しています。また、利用者様が入居された後には、積極的声掛けを行い、信頼関係を構築、利用者様の御意向や、潜在的な不安を払拭するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族とのコミュニケーションを密にして、入居者様の普段生活の様子をお伝えすることで、初期段階で判らなかった問題点・ご家族・スタッフの気づきを話合う機会を設け、状況によって変化のご家族の不安点困っていることの解決に向けて意見交換を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者様のこれまでの病状の経緯や、ご家庭のご様子・ご家族の御意向の聞き取りを徹底的に行い、必要とされる支援に優先順位を設定、まず、解決しなければならない点を明確にし、ご家族の同意を得た上で、当施設で出来る事、関連機関への支援要請を含め、広い視野でのサービス提供を心掛けて活動しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活歴や、性格を共有し、その方の出来ることを維持できるように、また出来ないことを職員のフォローで出来るように支援しております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者のご家族も、“共に生活する家族の一員”として考え、ご家族に対してもどんな支援が必要か・必要な情報は何か？を考え、併せてご家族からも安心して様々ご相談を発信して頂けるよう、事務的ではなく、家族的な関係構築をスタッフ全員で常に考えて行動しています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者様のこれまでの生活様式等をご家族・関係者の方からヒヤリングを行い、今迄の生活環境に出来るだけ近づけるように工夫して支援を行っています。また、ご家族・お知り合いの方の施設へのご訪問の機会を作って頂けるよう、スタッフからも情報を発信しています。	馴染みの人とは、居室で過ごしたり、外食や買い物に出掛けたりしています。本人の希望に応じて馴染みの場所へドライブがてら出掛けることもあります。趣味の裁縫や編み物、生け花、料理、洗濯など、本人がこれまで培ってきた習い事や趣味、得意なことなどの継続も支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共有スペースでの入居者様のご様子等をスタッフが注視し、適切なタイミングでの声掛け・簡単な家事を協働で行って頂く等、入居者同士の良好な関係作りと維持を支援しています。また、入居者様のパーソナルスペースを意識し過度の干渉等が発生した場合にも適切なタイミングでスタッフが介入し、個人のご気分を害さない様に、留意して支援を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も利用者であった方のご様子を含め、ご家族の状況等を伺う機会を設け、必要に応じて、過度な干渉にならない範囲での相談・支援を行えるよう良好な関係の継続・維持に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者、ご家族・関係者の方々の御意向を傾聴し、スタッフ間で共有・分析を行い、ご希望に沿った支援を行うように活動しています。また、意向の把握が困難な方でも、ご本人の気持ちを汲み取り、その方が何を求めているのか職員間で共有しケアにつなげています。	本人の思いや意向、潜在的な不安など、ケース検討で職員間で共有、分析を行っています。不穏になる場合など、言葉に表せない本人の気持ちを推し量り、何を求めているのか常に情報を共有しながら支援につなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に、本人やご家族、関係機関から生活歴、その方の人となりなどの聞き取りをおこない、入居しても環境の変化、対応の変化に混乱することのないように心がけております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者様一人一人の体調や生活スタイルを考慮し、必要に応じて安静臥床や散歩、外気浴をお勧めし、出来る範囲で家事を行っていただく等、残存能力を発揮して頂く場を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のミーティング時にスタッフ間でモニタリングを行い、ご本人の思いを汲み取った上、ご家族や医療関係者とも意見交換をして、計画を作成しています。	入居時のアセスメントを丁寧に行い、ケアプランは基本的に長期目標1年、短期目標は6ヶ月で設定をしています。見直しは6ヶ月で行いますが、毎日の個別の介護経過記録から変化がある時は、期間に拘わらず見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様個々に24時間スケールで日々の記録をとっています。記録は職員間の情報共有や、介護計画の見直しに役立っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者様への支援はケアプランに基づき実施していますが、個々のニーズに可能な限り沿うことが出来るよう、柔軟な支援やサービスの多機能化に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナウイルスの流行により外出機会が減っており、地域資源が十分に活用出来ていない状況が続いています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者様の体調不良時は、提携している訪問看護ステーションおよび主治医に指示を仰ぎ、対応をしています。また、24時間体制で往診して頂けるようにしています。	入居前のかかりつけ医の継続の支援をし、現在複数の医師の定期的な訪問診療を受けています。臨時の往診も随時あります。通院は基本は家族対応ですが、職員が付き添うこともしています。毎週看護師の来訪があり、健康管理に役立っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師の定期来所時には、日々の中での気付きや情報をしっかりと伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院の際に安心して治療が出来る、できるだけ早期に退院できるよう、日頃より主治医や訪問看護ステーションなどと積極的に関係作りおよび情報共有に努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化・終末期と思われる入居者には早期にご本人やご家族の意向を確認し、担当主治医や訪問看護師を交えて支援に取り組んでいます。	入居時の説明のほか、重度化した場合には、家族、医師、看護師、職員出席によるサービス担当者会議で支援方法を検討しています。今年度、複数の看取り介護を行っています。看取りの後には、デスカンファレンスで振り返りをしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルを作成しており、これに基づき緊急時の対応を行うよう周知・徹底をしています。また、外部の研修などを通じて、実践力も身に付けられるようにしています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災・地震・水害等の災害を想定した法人内の避難訓練や、事業所内での訓練等を年に数回程度実施しています。	非常災害時の具体的計画マニュアルを整備しています。年2回、夜間の津波を想定した法人合同防災訓練を実施しているほか、事業所内の自主訓練を行っています。備蓄リストがあり、適切に保管管理をしています。	防災訓練を含む災害時の地域との協力や事業所でできる支援体制について、具体的な検討が望まれます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様、一人ひとりのプライバシーを確保し、相手の気持ちを大事にした言葉かけや対応をするように心がけています。	利用者を契約に基づく「お客様」と考え、信頼関係を大切にしています。利用者一人ひとりのパーソナルスペースを意識し、信頼関係を築いた関わりの中にも適切な距離間での言葉かけや対応の支援を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様の思いに寄り添えるよう、心がけながら日々対応しています。可能なことについては、入居者様の思いを実現する場をもっていきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の生活歴に着目し、ご希望に寄り添い、入居者主体で過ごして頂けるように努めています。また、傾聴に重きを置き、日頃の思いを把握し、その人らしい暮らしができるよう、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日々の生活の中で、ご自身で洋服を自由にコーディネートしたり、鏡を見てお化粧したりと、おしゃれを楽しんで頂けるよう、支援に努めています。また、定期的な出張美容室にてご希望に沿ったヘアーカットやカラー等、おしゃれも楽しんで頂いています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	長年行ってきた主婦の知識を活かして頂ける様、野菜切りや、皮むき、味見などに加わって頂いたり、下膳後の食器拭きなど、手伝って頂いています。	食材は地域の店から購入し、職員が献立を考え手作りをしています。利用者は食材の下ごしらえ、味見、後片付けなど場面場面で手伝っています。事業所の向かいにある、八部公園に手作り弁当を持っていき、ピクニックを楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	コロナ禍で施設内で過ごすことが多く、汗をかくことがあまりなかったが、ティータイムやおやつ、食事中などに、水分補給したり、必要に応じて、摂取量を把握するなど配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、入居者様に応じた口腔ケアの義歯の夜間洗浄等、口腔内を清潔に保つようになっています。また、定期的な歯科往診を受け、口腔内の把握にも努めています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	入居者様の排泄パターンを共有しています。変化も把握し、一定の時間に言葉かけや、必要に応じてトイレにお連れさせてもらっています。	「パットについては一旦使用をやめる」「おむつ対応にせず、日中はトイレ対応を継続」など、排泄の自立や維持に向けた支援やトイレでの排泄についてケース検討で丁寧に話し合っています。排便についての内部研修も行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	記録により、便秘の発生を事前に察知し、水分量を多めに摂って頂いたり、腹部をマッサージし、排便を促しています。改善されない場合は、医師の指示のもと排便コントロールしています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入居者様のご希望を尊重し、気持ちよく入浴してもらえるよう努めています。入浴回数を記録し、計画を立てて入浴しています。入浴ごとに浴槽を清掃するなど衛生面にも留意しています。	入浴に偏りが出ないように、記録に残し、配慮しています。機械浴では、介護度の高い利用者も浴槽に入り、体を温めることができます。浴槽の湯は都度入れ替えており、皆一番風呂を楽しみます。拒否がある場合は声かけや対応を工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	朝起きて、夜寝るという基本的な生活サイクルも大事にしつつ、一人ひとりの体力、要望等、考慮しながら対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋やお薬カードなどの把握に努め、薬の効果や、副作用についても、日々観察しています。また、医師、薬剤師との連携を密にすることを重視しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その日の体調や入居者様の状況に合わせて支援を行っています。特にご本人の要望には、できる範囲で配慮したり、お手伝いなど、できる限り力を発揮してもらうようにしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍のため、基本的には外出は控えていましたが、施設付近を散歩したり、外気浴はできる範囲で行いました。ご希望があれば、ご家族との外出をされる方もいました。	散歩は天候や本人の希望に沿いながら対応しています。利用者と一緒に職員も外気浴をしながら談笑している場面も見受けられます。コロナ禍が続いており、家族との個別外出は通院程度で自粛しています。初詣、花見、ドライブなどはできる範囲で出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持っているだけで安心される方には、少額お持ち頂くなど、入居者様のお気持ちを大事に支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙を書くことが好きな方には、身体に負担がかからない程度、書く機会を提供しています。電話は、頻繁にならないよう、ご家族様と入居者様の間に入り、調整するなど配慮しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内、フロア、リビングについては毎日、モップかけや、掃除機を使用し清掃しています。台所、トイレについても、毎日清掃を実施しています。空気の入替えや、カーテンを開け、光が入るようにするなど、環境面にも意識的に配慮しています。	1階ユニットでは環境整備のため、職員がアイデアを出し合い、廊下の荷物などを整理し、利用者が寛げる廊下スペースを確保する改善をしています。新型コロナウイルス感染症対策として、光触媒で空間を脱臭・除菌する装置の設置のほか、適切な清掃、陽光、職員の声のトーンなど心地よい環境作りをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	今年度は、フロアにソファやテレビを置き、ゆっくり過ごせるスペースを増やしました。選択できる環境を整えることで、気の合う人と会話を楽しんだり、お一人で過ごすなどできるように配慮しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室には、写真やご本人が以前から使用されていた物を置く等、安心して過ごしていただけるよう工夫しています。	居室には事業所の備え付け設備のほか、年代物のタンス、仏壇、鏡台、家族の写真、月刊誌、小物品、絨毯など本人の馴染み深い品々を置いています。居室担当職員を中心に整理整頓、衣類の入れ替え、不足品のチェックなど行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者様のできることやわかっていることを把握した上で、できる限り力を発揮して頂くことにより、無理なく自立した生活が送れるよう支援しています。		

事業所名	ラ・プラージュ湘南
ユニット名	2F ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念は作成していますが、理念を振り返る機会がなかったように思います。もう一度基本に立ち返り、どこに向かうべきか振り返る時間が必要と感じています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所の方へのあいさつは習慣にしています。今年度は大きな行事が実施できていないため、事業所に足を運んでいただくことが出来ていません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症があっても地域で生活できるという事を知っていただくために、散歩等を日常的に行っています。今年度は藤沢市グループホーム連絡会が主体となり認知症サポーター講座を実施しました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度はコロナウィルスの影響で、運営推進会議は書面にて実施しています。事業所の活動内容を報告して、意見やアドバイスをいただき事業に反映しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	2ヶ月に一度、藤沢市のグループホーム連絡会を実施予定でしたが、今年度も活動らしい活動は出来ていません。自治会から依頼があり、認知症サポーター養成講座を藤沢市グループホーム連絡会が主体となって実施しました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束にあたる、具体的な行為などをミーティング等で共有しています。玄関の施錠については、ご家族からも戸締りをしたほうがいいのではと意見をいただき戸締りをさせていただいております。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ミーティング等で虐待について学ぶ機会をつくっています。声掛け等、細かなところから日常的に気をつける組織風土をつくってまいります。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所では、数人後見人を立てている利用者さんがいらっしゃいますが、まだまだ知識不足なので勉強する必要があると思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、解約または改定等の際は、利用者やご家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を得ています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃から入居者やご家族の希望・要望を聴くことを心がけています。ご家族の面会時などに積極的にコミュニケーションをはかり、運営に反映できるように努力しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のフロアミーティングや、個人面談の際に意見や提案を聞く機会を設けています。その際に十分に検討して合意形成をはかってから、運営に反映するようにしています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	常勤に関しては、能力や実績を把握できるように人事考課制度が見直されています。また、年に1回職員の意向調査・満足度調査をおこない、各自が向上心を持って働けるように職場環境を整備しています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内では個々の専門性を高める為の研修が定期的に行われています。事業所内では常勤職員が研修委員会を担当していますが、まだ具体的な取り組みが出来ていません。新人職員にはOJTを基本に育成を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内では、月に一度管理者が集まる会議を実施しています。神奈川県グループホーム協議会の幹事も務めており、他事業所の取り組みなどを参考にする機会にしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前にご家族及び関連医療機関等から利用者様のこれまでのご様子・嗜好・既往歴等の聞き取りを行い、スタッフ間で共有・事前に支援計画を作成しています。また、利用者様が入居された後には、積極的声掛けを行い、信頼関係を構築、利用者様の御意向や、潜在的な不安を払拭するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族とのコミュニケーションを密にして、入居者様の普段生活の様子をお伝えすることで、初期段階で判らなかった問題点・ご家族・スタッフの気付きを話合う機会を設け、状況によって変化のご家族の不安点困っていることの解決に向けて意見交換を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者様のこれまでの病状の経緯や、ご家庭のご様子・ご家族の御意向の聞き取りを徹底的に行い、必要とされる支援に優先順位を設定、まず、解決しなければならない点を明確にし、ご家族の同意を得た上で、当施設で出来る事、関連機関への支援要請を含め、広い視野でのサービス提供を心掛けて活動しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活歴や、性格を共有し、その方の出来ることを維持できるように、また出来ないことを職員のフォローで出来るように支援しております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者のご家族も、”共に生活する家族の一員”として考え、ご家族に対してもどんな支援が必要か・必要な情報は何か？を考え、併せてご家族からも安心して様々なご相談を発信して頂けるよう、事務的ではなく、家族的な関係構築をスタッフ全員で常に考えて行動しています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者様のこれまでの生活様式等をご家族・関係者の方からヒヤリングを行い、今迄の生活環境に出来るだけ近づけるように工夫して支援を行っています。また、ご家族・お知り合いの方の施設へのご訪問の機会を作って頂けるよう、スタッフからも情報を発信しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共有スペースでの入居者様のご様子等をスタッフが注視し、適切なタイミングでの声掛け・簡単な家事を協働で行って頂く等、入居者同士の良好な関係作りと維持を支援しています。また、入居者様のパーソナルスペースを意識し過度の干渉等が発生した場合にも適切なタイミングでスタッフが介入し、個人のご気分を害さない様に、留意して支援を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も利用者であった方のご様子を含め、ご家族の状況等を伺う機会を設け、必要に応じて、過度な干渉にならない範囲での相談・支援を行えるよう良好な関係の継続・維持に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者、ご家族・関係者の方々の御意向を傾聴し、スタッフ間で共有・分析を行い、ご希望に沿った支援を行うように活動しています。また、意向の把握が困難な方でも、ご本人の気持ちを汲み取り、その方が何を求めているのか職員間で共有しケアにつなげています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に、本人やご家族、関係機関から生活歴、その方の人となりなどの聞き取りをおこない、入居しても環境の変化、対応の変化に混乱することのないように心がけております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者様一人一人の体調や生活スタイルを考慮し、必要に応じて安静臥床や散歩、外気浴をお勧めし、出来る範囲で家事を行っていただく等、残存能力を発揮して頂く場を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のミーティング時にスタッフ間でモニタリングを行い、ご本人の思いを汲み取った上、ご家族や医療関係者とも意見交換をして、計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者個々に24時間スケールで日々の記録をとっています。記録は職員間の情報共有や、介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者様への支援はケアプランに基づき実施していますが、個々のニーズに可能な限り沿うことが出来るよう、柔軟な支援やサービスの多機能化に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナウイルスの流行により外出機会が減っており、地域資源が十分に活用出来ていない状況が続いています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者様の体調不良時は、提携している訪問看護ステーションおよび主治医に指示を仰ぎ、対応をしています。また、24時間体制で往診して頂けるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師の定期来所時には、日々の中での気づきや情報をしっかりと伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院の際に安心して治療が出来る、できるだけ早期に退院できるよう、日頃より主治医や訪問看護ステーションなどと積極的に関係作りおよび情報共有に努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化・終末期と思われる入居者には早期にご本人やご家族の意向を確認し、担当主治医や訪問看護師を交えて支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルを作成しており、これに基づき緊急時の対応を行うよう周知・徹底をしています。また、外部の研修などを通じて、実践力も身に付けられるようにしています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災・地震・水害等の災害を想定した法人内の避難訓練や、事業所内での訓練等を年に数回程度実施しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様の性格やこれまでの生活環境・生活歴を熟考した上でケアプランを立て、入居者様の人格やプライバシーを尊重した支援を行うよう努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	各入居者様が発する言葉や表情、動作等の様々な角度から、ご本人様の思いや希望を汲み取り、尊重出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の年齢・体調・日々の様子や違いを職員間で話し合い、入居者様にとって一番良い支援・入居者様優先の支援が出来るよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々人の好みに応じ、天候や季節感を大切にし、清潔な身だしなみが出来るように配慮し、支援しております。美容院の利用やマニキュアなどのおしゃれを楽しまれる方への支援も大切にしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者様と食事の用意をしたり、食事を楽しめるよう一人一人の好みや飲み込みの力などを配慮し、食形態や盛り付け等も工夫をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の健康状態を把握し、食べられる量や食べやすい形態で提供し、無理なく摂取できるよう工夫しています。必要に応じ水分摂取量チェックを行い、目標量の摂取が出来るよう対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床時、昼食時、夕食時に口腔ケアを行っています。必要に応じ職員が介助し、義歯の洗浄も行っています。訪問歯科とも連携し、健康な口腔環境を保てるよう支援をしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を参考に、各々の排泄サイクルに合わせて介助を行っています。自立の方は声かけや見守り、一部介助をして、夜間帯はポータブルトイレを使用するなどして、ご本人の力で排泄を続けられるよう支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	下剤だけに頼らず、食事量や水分量の調整、飲食物の工夫など個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	全員が満遍なく入浴が出来るように配慮をしています。各入居者様の個々の状態に合わせて一般浴・シャワー浴などを実施しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調やご希望に合わせて休憩をお取り頂いています。夜間は安眠出来るよう室温や照明などを調整しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋をファイリングし、服薬内容を職員間で共有しています。症状に変化があった場合は、主治医や訪問看護ステーションへ連絡をして指示を仰ぎ、また服薬時は誤薬や服薬忘れがないように職員複数名で確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者様一人ひとりが充実した毎を送れる様に食事の手伝い、洗濯物の整理、歌、散歩、ゲーム、買い物などをし、生活を楽しめる支援をしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している。	散歩がしたい、ドライブへ行きたいなどのご希望には、状況を見ながら可能な限り対応をしています。今年は花見、初詣、ドライブの外出をしています。新型コロナ感染防止の観点から外食は控えています。食べたい物の要望を聞き入れ提供もしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を所持していないことで不安を感じる方のために、ご家族の協力を得ながらお財布を持って頂き、不安を少なく出来るように支援をしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者様やご家族様より電話や手紙でのやりとりのご希望があれば、ご希望に添えるようにしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間においては、程良い明るさ、鮮やかさ、色味・室温等に気を配り、快適な日常を提供出来るよう心掛けています。また、掲示物については季節を感じられるもの、各々が参加することで達成感を得られるものを掲示し、感性の活性化に努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者様同士が並んで談笑したり、テレビ鑑賞したり出来るよう、椅子の配置を工夫し、ゆったりとした空間を整えています。また、1人用の椅子を置くなどして、個々の時間もお持ち頂けるように工夫をしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室では馴染みの机を置いたり、ご家族との写真を飾り、居心地の良い生活を送って頂けるようにしています。また、日々のベッドメーカーやシーツ交換なども徹底するようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各入居者様一人ひとりの力に合わせて「出来ること」「わかること」を活かせるように、バリアフリーを心掛け、安全かつ自立した生活を送って頂けるように工夫をしています。		

2021年度

事業所名 ラ・プラージュ湘南

作成日： 令和3年 12月28日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		職員によってケアの質にバラつきがある。	介護の質を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症介護基礎研修、認知症介護実践者研修に参加する機会をつくる。 ・認知症ケアや虐待防止について、年に3回以上研修を実施する。 ・介護技術においても研修を行う。 	12ヶ月
2		コロナウイルスの影響で生活の幅が狭まっている。	感染予防をしながら、楽しみのある生活を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・手指衛生やマスク着用など、基本的な感染対策は徹底する。 ・人と会わない場所の散歩や、外出など、感染リスクを減らしながら、楽しみのある生活を送る。 	12ヶ月
3		環境整備に取り組んできたが、寛げる環境に改善できたとは言い難い。	これまでの活動を振り返り、よりよい環境を作っていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間かけて実施してきた環境整備を振り返り、課題や改善点を抽出する。 ・改善に向けて、よりよい環境を作っていく。 	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月